2023 年 6 月 15 日

【車両火災統計について】

郡山地方広域消防組合管内では過去 10 年間（2013 年（平成 25 年）から 2022 年（令和 4 年まで）に 129 件の車両火災が発生しました。

夏の行楽シーズンを前に、旅行等での車両の利用が増加すると予想されることから、日頃からの管理や点検・整備の重要性を喚起するため、車両火災の統計をまとめましたのでお知らせします。

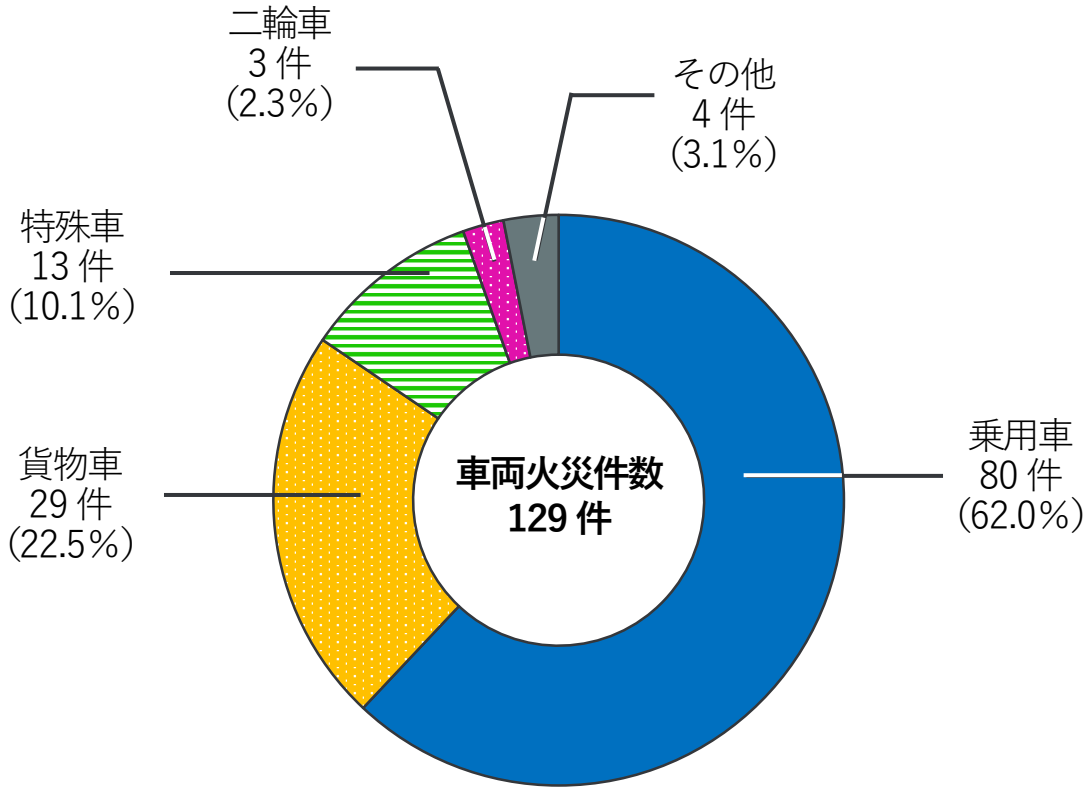
※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値

＜車両区分＞

「乗用車」・・・・・・・・・・一般的な乗用車など主に人員の運送をする車両
「貨物車」・・・・・・・・・・トラックなど主に貨物の運送をする車両
「特殊車」・・・・・・・・・・クレーン車やゴミ収集車など
「二輪車」・・・・・・・・・・バイク（自転車は含まない）
「その他」・・・・・・・・・・上記に該当しないもの（事業所敷地内だけで運用されるトラックなど）

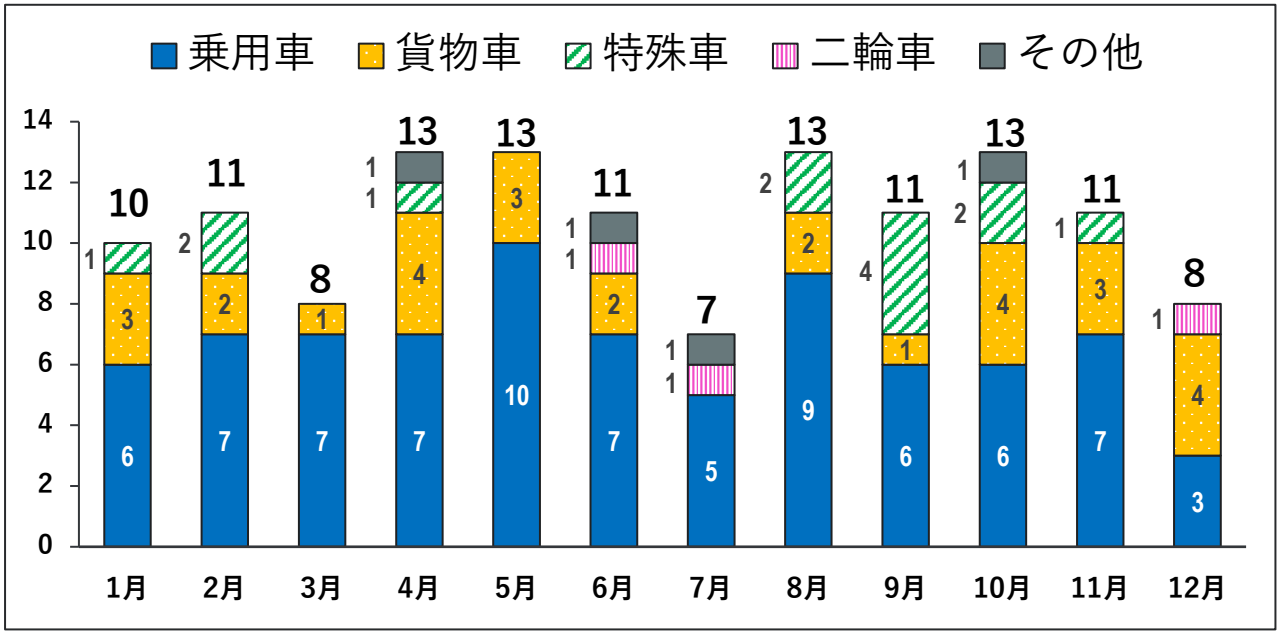
1　車両区分別火災件数

過去 10 年間の車両火災 129 件を車両区分別にみると、乗用車が 80 件（62.0%）と最も多いことがわかります。



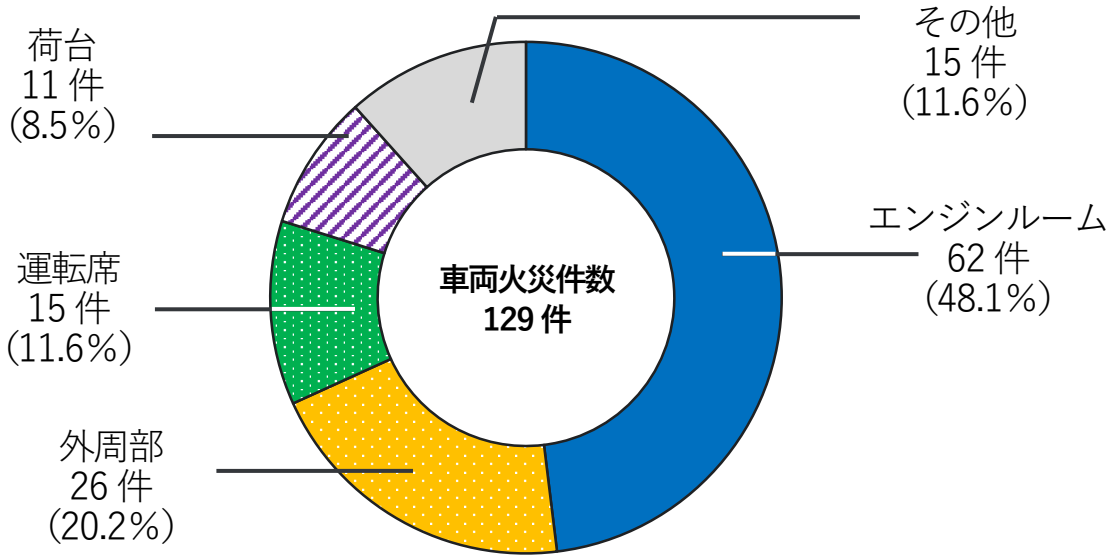
2　月別発生件数

過去 10 年間の月別火災件数をみると、4 月、5 月、8 月及び 10 月がいずれも 13 件（車両火災 129 件のうちそれぞれ 10.1%）と最も多いことがわかります。



3　出火箇所別火災件数

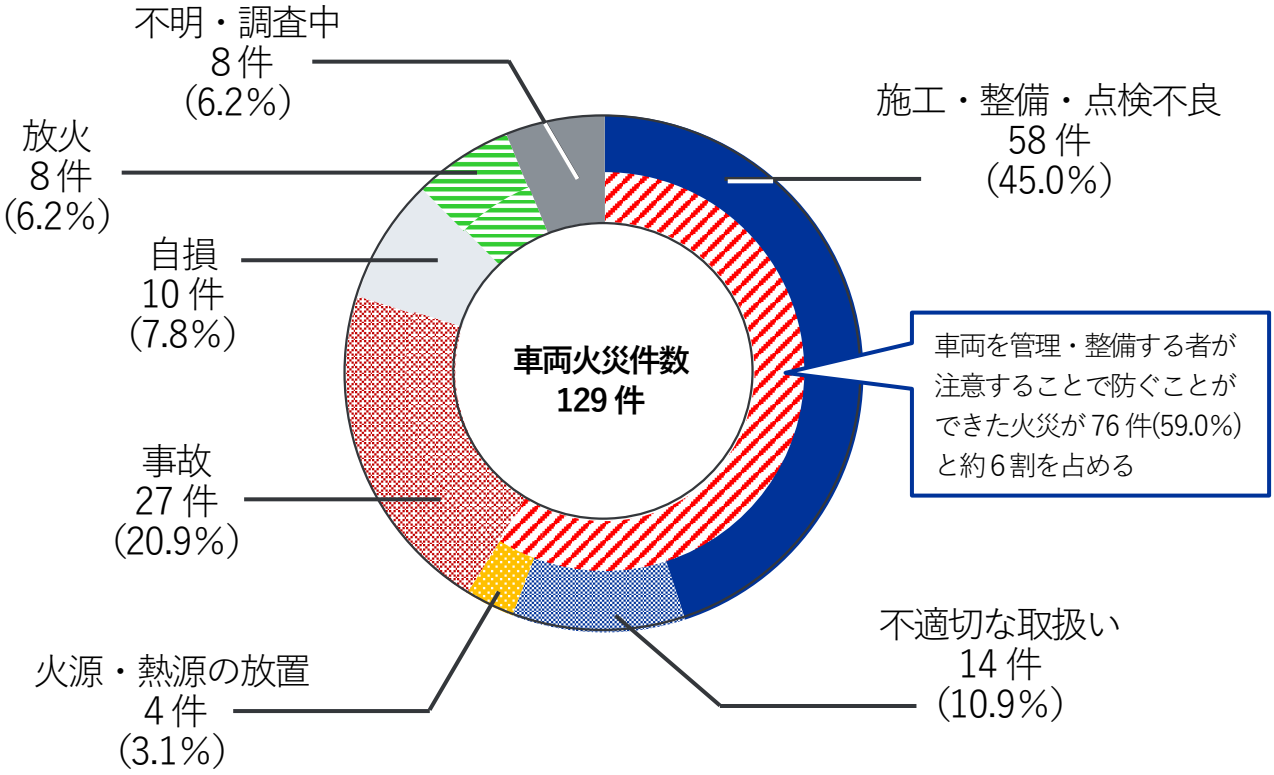
火災件数を出火箇所別にみると、エンジンルームが 62 件（48.1%）と最も多く、次いで外周部が 26 件（20.2%）と続きます。外周部からの火災は、車両のボディなど通常の使用では発火源となる可能性極めて低い部分が、放火などにより出火箇所と判定されたものが該当します。



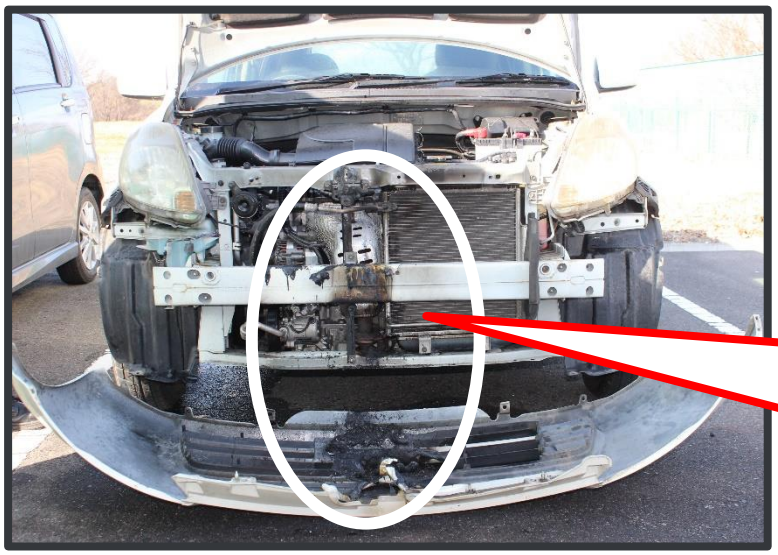
4　行動分析による原因別火災件数

火災が発生した経緯を、行動別に分類すると、「施工・整備・点検不良」が 58 件（45.0%）と最も多いことがわかります。

施工・整備・点検不良、不適切な取扱い、火源・熱源の放置を合わせると 76 件（59.0%）と過去 10 年間の車両火災件数の約 6 割になり、これらの火災のほとんどは車両を管理・整備する者が注意することで防ぐことができた火災であることがわかります。



【事例】

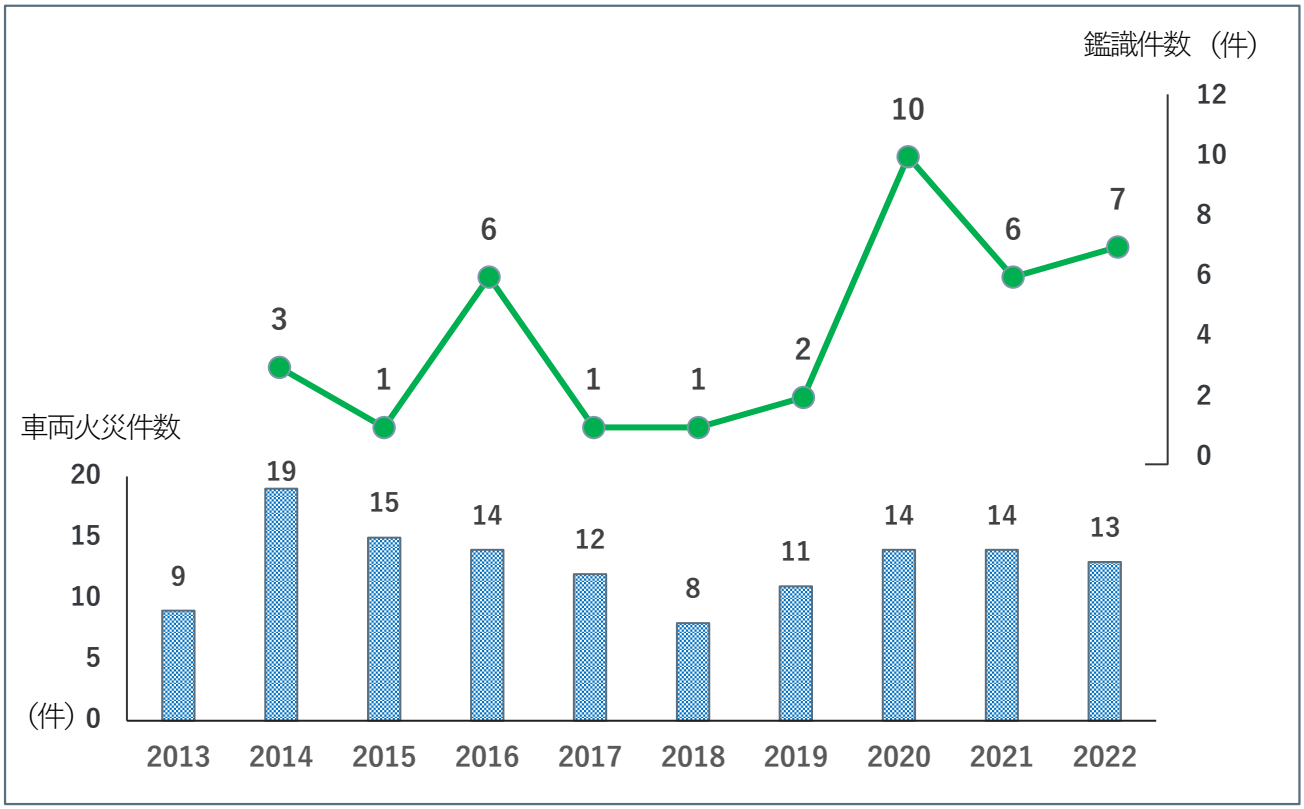


整備に使用したウエス（布）をエンジンルーム内に置き忘れ、ウエス（布）がエンジンルーム内の排気系統の高温部に接触して火災に至った事例。
（分類：施工・整備・点検不良）

周辺の部品にも延焼しており、燃えたウエス（布）はエンジンルーム内で固着していた。
点検・整備後は使用した道具をエンジンルームなどに置き忘れていないか確認が必要です。

5　車両火災件数と車両火災の鑑識件数の推移

過去 10 年間の車両火災件数をみると、2014 年ごろからやや減少傾向である一方、年間の車両火災の原因調査における消防の鑑識件数をみると増加傾向にあることがわかります。これは、ハイブリッド車や電気自動車など車両の構造が複雑化しているため、火災原因調査に専門的な知識や機器が必要となっていることが一因と考えられます。（ ※2013 年は鑑識 0 件 ）



【火災の鑑識とは】

「火災原因及び火災による損害の判定のため、専門的な知識、技術及び機器を活用し、総合的な見地から具体的な事実関係を明らかにすること」

火災が発生すると、消防では火災原因を調査します。この火災原因の調査は消火活動中から同時進行で実施され、鎮火後も引き続き現場で調査が行われます。しかし、車両をはじめとする機械や装置は、精密な部品が複雑に絡み合っているため、メーカーの専門的な知識や火災現場では準備できない機器が必要となる場合があります。したがって、日時または場所を改め原因究明のための詳細な調査が行われます。

【担　当】
郡山地方広域消防組合消防本部
総務課　統計分析係　安藤（利）
TEL：024 - 923 - 1740
FAX：024 - 923 - 1228